

## 東扇島堀込部

# リニア残土で埋め立てへ

## 20年度から 市とJR東海が覚書

川崎市は、リニア

中央新幹線・梶ヶ谷非常口

(宮前区)の工事で発生す

る残土を受け入れ、川崎区

の東扇島堀込部を埋め立て

る土地造成事業を実施する

ための覚書をJR東海と結

んだ。三十日に開かれた市

議会環境委員会で報告し

た。

覚書は二十八日付。公有

水面を埋め立てるための免

許取得を前提に、二〇二〇

～二五年度にかけて残土約

百四十万立方メートルをJR梶ヶ

谷貨物ターミナルから臨海

部に鉄道で運ぶ。さらに東

扇島へ船で搬入する。

残土の運搬、堀込部の護

岸築造、埋め立てなどにか

かる費用は概算で二百億円

で、JR東海が負担する。

年度から道路や下水、地盤改良などの基盤整備を市が

四十億円かけて行う。本年度内に埋立免許を取得し、来年度から護岸築造工事に着手する予定。

市によると、川崎港ではコンテナ取扱量の増加を見込んでおり、主要貨物である完成自動車を保管する用地、物流倉庫の老朽化に伴

う建て替への代替用地の確保が課題。

この日の環境委員会では委員から市民への十分な説明を求める意見があり、市の担当者は「事業者であるJR東海に説明会の実施を要請していく」と述べた。

(小形佳奈)

2017年8月31日

東京新聞

# JR東海200億円負担

## 東扇島埋め立てで市と合意

川崎市は30日、リニア中

央新幹線整備に伴う建設発生土を川崎港・東扇島の掘込部埋め立て事業で受け入れ、事業費200億円をJR東海が負担する内容で同社と合意したと明らかにした。埋め立て用の土の安定確保と資金調達にめどが付いたことから、市は本年度内に埋め立て免許を取得した上で2018年度から工事着手を目指す。

(高本 雅通)

### 18年度着工へ



同日の市議会環境委員会で28日に両者で交わした覚書の内容を説明した。同事業は、東扇島の中央部の凹型の水面を埋め立て、増加するコンテナ貨物や完成車

に対応した関連用地13・1

幹線の梶ヶ谷非常口(宮前

区梶ヶ谷)のトンネル工事

に伴う発生土約140万立

方畝を受け入れる②埋め立

て事業の概算事業費240

億円のうち、護岸工事など

埋め立て事業200億円は

幅約2900㍍、奥行き約4300㍍ある東扇島の掘込部(川崎市提供)

JR東海、道路や下水など基盤整備事業40億円は市が負担する③発生土の品質は市が定める環境基準に適合させるなどで合意した。発生土の運搬はJR東海が責任を持つ。梶ヶ谷非常口から鉄道貨物で臨海部まで運び、掘込部まで海上輸送で搬送する予定。ダンプ輸送のように交通渋滞を招かず、環境への負荷が少ない運搬手法を選んだ。

市は負担分の40億円を地方債で調達し、造成後の土地貸し付け収入で償還することを想定。28年度からの土地利用を目指す。

JR東海は今年6月、発生土を東扇島埋め立てで受

け入れることを市に要請。市は搬入土量、費用負担などの課題を整理しながら話し合ってきた。

川崎港では近年、コンテナ取扱量が5年間で3倍に増え、完成自動車の輸出も堅調に推移。コンテナ関連用地や車両保管用のストックヤードの不足が予想され、東扇島の土地造成計画を14年11月に改訂した港湾計画にも明記されている。

2017年8月31日

神奈川新聞